第100回　市史講座　　2023.3.5

金沢市立玉川図書館　袖吉　正樹

『古文書講座』

「古文書を読んでみよう」

古文書を読む

（1）古文書の文体の特徴に慣れる

・仮名混じり漢文体（和漢混交文体）
　純粋な漢文ではなく、日本で造られた用語や用法による

・返読文字（へんどくもじ）・・・下の文字を読んでから、上の文字に返って読む

・送り仮名は書かれない

・候文（そうろうぶん）・・・文末が「候」という言葉で終わる

（あずかりおきもうさずそうろうむねおおせわたされそうろう）
・預り置不申候旨被　仰渡候
「預かっておかないようにと命じられました」

（まったくじかにまぎれござなくそうろうむねこれをもうしそうろう）
・全自火ニ紛無御座候旨申之候
「まったく自火であることに間違いない趣旨のことを申しました」

（これあり）
・在（有）之
「…がある、存在する」

（あそばされ・あそばせられ）
・被遊・被為遊
「…なさる」

（おおせられ）
・被仰
「めいじられ」

（くださるべくそうろう）
・可被下候
「…してください」

（ありがたくぞんじたてまつるべくそうろう）
・難有可奉存候
「ありがたく存じ上げます」

（かくのごとし）
・如此・如斯
（この通り）

（かいさいせしめそうろう）
・令皆済候
「皆済される」

（れ）
・被
「受身・尊敬・可能」

（おそれながら）
・乍恐

（す・させ・として・ため・なす）
・為

（これにより）
・依之

（2）その時代の用語・固有名詞・表記の仕方などを知る

・接続詞・副詞・形容詞・形容動詞など

・変体仮名・・・江（え）・而（て）・茂（も）・与（と）・者（は）・敷（か）・而已（のみ）

・異体字

・合字

・尊敬の表記・・・闕字（文字と文字の間を一字分空ける）、平出（改行する）
　抬頭（改行し、その一番の文字を他行より一字高く書く）

・接頭語・・・ある語の上について、語調を整えたり、意味を強めたり、添えたりする

・接尾語・・・名詞や動詞、語句の末尾について、意味を添える単語

（しかしながら）
・乍併
「しかし・だが」

（しかるうえは）
・然上者
「この上は」

（しからば・しかれば）
・然者
「だから、さて」

（しかのみならず）
・加之
「そればかりでなく」

（ならびに）
・并
「および、かつ」

（もっとも）
・尤
「ただし」

（いささか）
・聊（も）
「すこしも」

（しかることころ）
・然所（処）
「ところで、ところが」

（いよいよもって）
・弥以
「ますます」

（けっして）
・決而
「どうしても」

（はたまた）
・将又
「はたまた」

（とくと）
・篤与
「よくよく」

（なるべくだけ）
・可成丈
「できるだけ」

（たとい）
・縦・仮令
「もし」

（すなわち）
・則
「そこで」

（べっして）
・別而
「とくに」

（がましく）
・ケ間敷
「…らしい」

（よろしく）
・宜敷
「よろしい」

（より）
・ゟ

（こと）
・と

（とも）
・乍

（コト）
・コ

（しめ）
・メ

（して）
・シ

・相（あい）

・打（うち）

・御（ご・お・おん）

・指・差（さし）

・間敷（まじく・き）

・兼（かね）

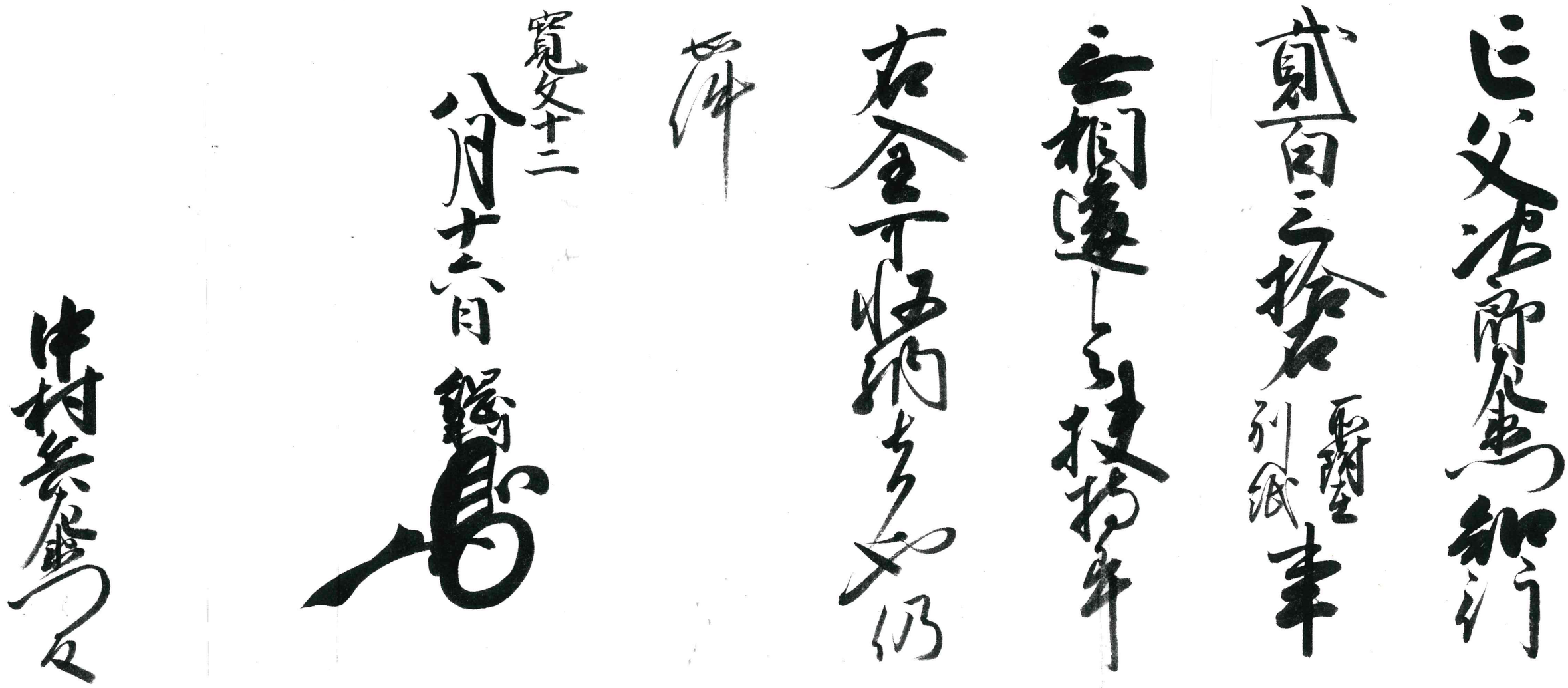
・宛・充（ずつ）

・度（たし）

（3）字典の活用

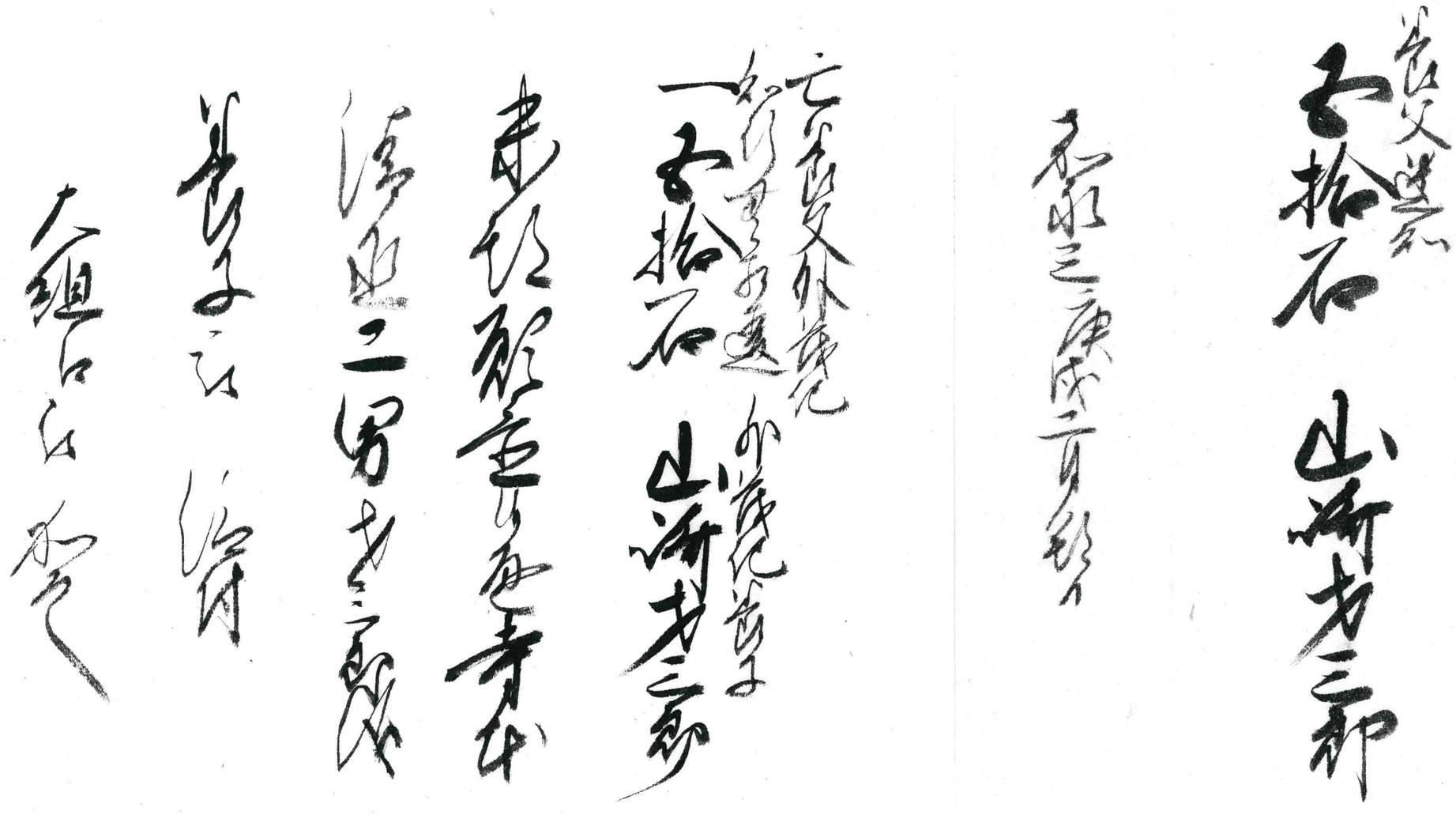
・字典の用例を読む

・部首のくずしを覚える
　辞典に載っているくずし方がすべてではありません



寛文十二
八月十六日

寛文12年（1672）8月　前田綱利（綱紀）知行宛行状



嘉永３年（18450）２月　知行目録并養子仰付状

知行所附之事

草高
一拾石三斗四升　石川郡　中林村
御蔵米　五ッ八歩

草高
一五石三斗七升　河北郡　今町村
御蔵米　五ッ八歩

草高
一弐拾三石弐斗九升　新川郡　荒生村
御蔵米　四ッ四歩

草高　合三拾八石八斗三升弐合

内
弐拾五石　加州領　三ッ六歩
弐拾五石　越中領　四ッ三歩

右之所ハ未支配　公義御上納

嘉永三庚戌年二月朝暮

山崎主殿

私儀切腹仕候尚全嫡子に相違無之天保四巳年七月昔亡父尚全
為跡目に　石出遺知皆悉捨右箱遺物頂戴　仰付組外に
に相加誠結構に　石仕雖有仕合奉加之恐奉存候何と
御奉公成不申上病死可仕候哉足此次第奉存御礼筋
何分宜敷に仰上可に下に候せ之　剣左衛門儀當年七歳に成中に
此者御慈悲を以如何様に成に　石出に下に者宜敷賢雖有
仕合可奉存に此等之儀御席を以可被仰達
御聽可に下に急死雖仕兼而相調置中に候と

弘化三年六月廿二日

仁岸宗右衛門

山口常之助殿

高木與力殿